

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽理論（楽典）

教科：芸術 科目：音楽理論（楽典） 単位数：1 単位

対象学年組：第1学年 4組

使用教科書：（『楽典～理論と実習～』、補足プリント）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽の表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考えたりし、表現意図を明確にもったり、音楽や演奏の価値を見いだして鑑賞したりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】主体的に音楽に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、音楽文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。

科目 音楽理論（楽典） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
音楽の構造を捉えるための理論や、音楽を構成する原理、多様な楽曲の形式について理解する。	音楽理論を、豊かな音楽表現、作品の解釈や価値判断を深めるために活用する思考力、判断力、表現力等を育成する。	音楽表現の基礎となる音楽理論を主体的に学び、表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
前期	A 音楽理論の基礎 【知識及び技能】 音楽を専門的に学ぶ際に必須の「音」「音名」「リズム」「拍子」「音程」に関する基礎知識を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 知識を結び付けて考え、曲中で各要素がどのように用いられているか判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識を演奏活動や創作活動の実践に役立てる。	・指導事項 ①音の種類 ②音名と階名 ③様々な譜表 ④リズムと拍子 ⑤拍子の変化 ⑥音程の基礎 ⑦協和音程と不協和音程	【知識・技能】 「音」「音名」「リズム」「拍子」「音程」に関する基礎知識を理解している。 【思考・判断・表現】 知識を結び付けて考え、曲中で各要素がどのように用いられているか判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身につけた知識を演奏活動や創作活動の実践に役立てようとしている。	○	○	○	6
	B 音階と調性 【知識及び技能】 「長音階」「短音階」「教会旋法」「調判定」に関する基礎知識を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 理解した知識を活用して、曲中で使われている音階、調性、旋法等を判定する。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識を演奏活動や創作活動の実践に役立てる。	・指導事項 ①自然長音階と自然短音階 ②和声長音階と和声短音階 ③旋律長音階と旋律短音階 ④様々な調と音階 ⑤民俗音階 ⑥教会旋法 ⑦調判定	【知識・技能】 「長音階」「短音階」「教会旋法」「調判定」に関する基礎知識を理解している。 【思考・判断・表現】 理解した知識を活用して、曲中で使われている音階、調性、旋法等を判定できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身につけた知識を演奏活動や創作活動の実践に役立てようとしている。	○	○	○	10
	前期音楽科目テスト			○	○		1
後期	C 和音 【知識及び技能】 「和音」「和音の機能」に関する基礎知識を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 和音の種類と機能、調性と和音の関係等を結び付けて考え、曲中で使われている和音を分析する。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識を演奏活動や創作活動の実践に役立てる。	・指導事項 ①三和音と四和音 ②主要三和音と副三和音 ③音階固有和音 ④様々な和音 ⑤和音の機能 ⑦和音に関する問題演習	【知識・技能】 「和音」「和音の機能」に関する基礎知識を理解している。曲中で使われている和音を分析することができる。 【思考・判断・表現】 和音の種類と機能、調性と和音の関係等を結び付けて考え、曲中で使われている和音を分析することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身につけた知識を演奏活動や創作活動の実践に役立てようとしている。	○	○	○	11
	D 音楽用語 【知識及び技能】 「音楽用語」「演奏記号」「カデンツ」に関する基礎知識を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 同様の意味を持つ用語のニュアンスの違い、カデンツの響きの違いが、作品にどのように影響しているか考える。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識を演奏活動や創作活動の実践に役立てる。	・指導事項 ①速さ・強さに関する楽語 ②曲想に関する楽語 ③様々な演奏記号 ④カデンツの基礎、種類 ⑤総合問題演習	【知識・技能】 「音楽用語」「演奏記号」「カデンツ」に関する基礎知識を理解している。 【思考・判断・表現】 同様の意味を持つ用語のニュアンスの違い、カデンツの響きの違いが、作品にどのように影響しているか考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身につけた知識を演奏活動や創作活動の実践に役立てようとしている。	○	○	○	7
	後期音楽科目テスト			○	○		合計 35